

税理士法人 無十 (有限会社 芙蓉計算センター)

(むとう)

会社概要

- ・所在地 東京都大田区
- ・業種 税理士業務
- ・設立 1974年9月
- ・所員 13人
- ・URL <http://www.muto-kaikei.co.jp/>

1 きっかけはベトナム留学生受入

武藤剛代表 (54歳) がベトナムに進出しようと決めたまっかけは、ボランティアで行ったベトナム人留学生の受入。2011年に約2週間、簿記・会計を中心とする研修を行ったが、留学生のやる気と資質に感銘を受けた。また、設立して間もないベトナム税理士会への支援活動を行いたいと考えていたことも時期を同じくした。

もちろん、ボランティア精神だけでベトナム進出を決めた訳ではない。昨今、ベトナムへ進出する日本企業は増加傾向にあり、会計面でサポートしているのは大手監査法人やコンサルタントが中心になっている。武藤代表は、税務に強い会計事務所がバックアップすれば、特に、ベトナムに進出した小規模企業が安心して営業活動を行うことができるのではないかと考えたのである。

日本公庫から資金調達し、ベトナム・ハノイに会計事務所を設立してからは、監査法人やコンサルタントでは手の届かないサポートに取り組んでいる。

2 Win-Winの関係を目指して

武藤代表が行っている具体的なサポートメニューはこうだ。

【現地の日系企業向けサポート】

- ・同税理士法人が所属しているTKC※の会計システムを使って、本社と現地の日系企業とのデータを連結した月次報告書を作成。
- ・これにより、現地の日系企業は、これまで大手の監査法人に依頼していた作成費用を大幅に削減することができるようになった。

【ベトナム人税理士との業務連携】

- ・クライアントの現地での税務申告にあたり、武藤代表が支援活動しているベトナム税理士会所属の税理士を紹介。
- ・これにより、現地税理士にとっては、ローカル企業だけでなく、日系企業の税務申告業務も行うことができるようになった。

まさに、同法人が軸となって活動していくことで、現地の日系企業及びベトナム人税理士とWin-Winの関係を構築しているのだ。

※ 1万名を超える税理士及び公認会計士が所属する職業会計士団体



同法人のホームページ (トップ画面)

3 日本とベトナムの架け橋に

なぜ、ベトナムに進出したのか？あらためて、武藤代表に聞いてみた。

「やはり会計を通じて、日本とベトナムの架け橋になりたいというのが一番の理由になります。そのためには、現在、連携している現地のベトナム人税理士のレベルアップを図っていくことが重要です。そして、彼らが力をつけた暁には、現地での税務申告だけでなく、我々が行っている様々な会計サポートもやってもらうつもりでいます」とのコメント。

そうすると、みすみす競合相手を増やしてしまうことになるのでは？という問いに対しては、「現地の日系企業にとっては、『会計面での指南役』という選択肢が増え、現地で生じる様々な悩みや課題をタイムリーに解決していくことにつながります。ベトナムに会計事務所を設立した以上、当然、数字(利益)を追っていきます。ただ、それだけではなく、ベトナムにおける会計面での国際貢献を果たしていくという夢も一緒に追っていきたいんです」とこやかに回答していただいた。

同法人のホームページのトップには「会計事務所は数字ではなく、夢を育ててナンボです」と掲げられている。同法人が掲げる夢が、ベトナムの地でもかなえられる日が来るのはそう遠くないだろう。

2012年7月、ハノイで開設した現地会計事務所
「ムトー・マネジメント・アカンパニー・ベトナム」